



## 歴史・概要 ~その2~

H I S T O R Y

### せ と つねぞう 瀬戸 常蔵 (1909-1987) について



瀬戸常蔵は1909(明治42)年に利尻島の鷺泊村本泊(現在の利尻富士町)で生まれ、1921(大正10)年から父寅吉とともにニシン定置網漁業を経営し、1935(昭和10)年からは機船底曳網漁船の経営をはじめます。1936(昭和11)年に経済的に有利な地域をもとめて稚内に渡り、1956(昭和31)年には八丸水産と瀬戸漁業部を合併して瀬戸漁業株式会社を設立します。当時、八丸艦隊や瀬戸艦隊と称され、その底曳の偉容は堂々たるもので、水産のまち稚内の中心人物にふさわしい装いがあったとされます。

また常蔵は道内、国内にとどまらず、1977(昭和52)年からは日ソ漁業交渉日本政府代表顧問として活躍しました。顕彰も多数あり、1963(昭和38)年と1968(昭和43)年に紺綬褒章、1974(昭和49)年には産業功労者として藍綬褒章、1980(昭和55)年には勲四等旭日小綬章をそれぞれ受賞しました。また1968(昭和43)年に市政功労章、1987(昭和62)年には稚内市名誉市民にもなっています。このように常蔵は、稚内の基幹産業であった水産業界ならびに経済会の中心人物であったと言えるでしょう。